

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	北海道財務局長
【提出日】	2015年6月26日
【事業年度】	第18期（自 2014年4月1日 至 2015年3月31日）
【会社名】	株式会社エコミック
【英訳名】	E C O M I C C O . , L T D
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 熊谷 浩二
【本店の所在の場所】	札幌市東区北六条東四丁目8番地
【電話番号】	(011)742-6006(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 荒谷 努
【最寄りの連絡場所】	札幌市東区北六条東四丁目8番地
【電話番号】	(011)742-6295
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 荒谷 努
【縦覧に供する場所】	証券会員制法人札幌証券取引所 (札幌市中央区南一条西五丁目14番の1)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第14期	第15期	第16期	第17期	第18期
決算年月	2011年3月	2012年3月	2013年3月	2014年3月	2015年3月
売上高 (千円)	-	-	-	634,867	778,117
経常利益 (千円)	-	-	-	9,933	44,661
当期純利益又は当期純損失( ) (千円)	-	-	-	1,192	21,086
包括利益 (千円)	-	-	-	862	24,575
純資産額 (千円)	-	-	-	404,439	422,693
総資産額 (千円)	-	-	-	444,215	521,022
1株当たり純資産額 (円)	-	-	-	508.22	529.10
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額( ) (円)	-	-	-	1.51	26.50
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	-	-	-	91.0	80.8
自己資本利益率 (%)	-	-	-	-	5.11
株価収益率 (倍)	-	-	-	-	25.25
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	-	-	-	35,881	60,843
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	-	-	-	13,802	60,920
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	-	-	-	4,438	7,929
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	-	-	-	329,661	322,024
従業員数 (人)	-	-	-	42	55
(外、平均臨時雇用者数)	(-)	(-)	(-)	(103)	(111)

(注) 1. 第17期連結会計年度より連結財務諸表を作成しているため、第16期以前については記載しておりません。

2. 第17期連結会計年度より連結財務諸表を作成しているため、第17期の自己資本利益率については記載しておりません。

3. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

4. 第17期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

5. 第17期の株価収益率については、当期純損失であるため記載しておりません。

6. 当社は2014年4月1日付で株式1株につき200株の株式分割を行いました。第17期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額を算定しております。

7. 第18期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第14期	第15期	第16期	第17期	第18期
決算年月	2011年3月	2012年3月	2013年3月	2014年3月	2015年3月
売上高 (千円)	466,542	523,647	545,329	634,565	777,760
経常利益 (千円)	32,594	14,447	1,511	22,875	55,283
当期純利益又は当期純損失( ) (千円)	31,891	7,488	853	11,748	31,712
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-	-	-
資本金 (千円)	215,570	216,483	243,120	244,822	244,822
発行済株式総数 (株)	3,379	3,401	3,938	795,800	795,800
純資産額 (千円)	371,038	373,526	408,049	416,442	445,336
総資産額 (千円)	400,573	401,317	439,331	456,312	543,005
1株当たり純資産額 (円)	549.04	549.14	518.09	523.30	557.55
1株当たり配当額 (円)	2,000	2,000	2,000	2,000	12
(うち1株当たり中間配当額)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額( ) (円)	47.46	11.08	1.22	14.89	39.85
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	46.10	10.63	-	-	-
自己資本比率 (%)	92.6	93.1	92.9	91.3	81.7
自己資本利益率 (%)	8.92	2.01	-	2.85	7.38
株価収益率 (倍)	10.54	45.13	-	45.13	16.79
配当性向 (%)	21.2	90.3	-	67.2	30.1
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	55,228	10,846	680	-	-
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	8,277	9,471	47,509	-	-
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	5,100	4,976	34,761	-	-
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	327,231	323,630	311,561	-	-
従業員数 (人)	22	28	34	35	44
(外、平均臨時雇用者数)	(74)	(86)	(88)	(103)	(111)

(注) 1. 当社は第17期より連結財務諸表を作成しているため、第17期の営業活動によるキャッシュ・フロー、投資活動によるキャッシュ・フロー、財務活動によるキャッシュ・フロー並びに現金及び現金同等物の期末残高は記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 当社は関連会社を有していないため、持分法を適用した場合の投資利益については記載しておりません。

4. 第16期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失金額であるため、記載しておりません。

5. 第16期の自己資本利益率、株価収益率及び配当性向については、当期純損失であるため記載しておりません。

6. 第17期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

7. 当社は2014年4月1日付で株式1株につき200株の株式分割を行いました。第14期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額を算定しております。

8. 第18期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【沿革】

年月	事項
1997年4月	札幌市中央区にペイロール事業を目的として株式会社エコミック（資本金10,000千円）を設立
2000年5月	キャリアバンク株式会社が当社株式を70%取得したことにより、同社の子会社となる
2002年9月	東京都新宿区に東京カスタマーセンター（現 東京本部）を開設
2003年11月	本社を札幌市東区に移転
2004年1月	第三者割当増資（資本金51,200千円） キャリアバンク株式会社の出資比率が33.2%となる
2005年1月	第三者割当増資（資本金187,200千円） キャリアバンク株式会社の出資比率が87.6%となる
2006年4月	証券会員制法人札幌証券取引所アンビシャスへ上場 公募増資（資本金210,575千円） キャリアバンク株式会社の出資比率が62.6%となる（注）
2006年6月	東京カスタマーセンター（現 東京本部）を東京都文京区に移転
2007年7月	大阪カスタマーセンター（現 大阪営業所）を大阪府大阪市淀川区に開設
2010年5月	東京カスタマーセンター（現 東京本部）を東京都中央区に移転
2011年2月	本社を現在地に移転
2013年5月	中国山東省青島市に100%子会社として栄光信息技术（青島）有限公司を設立
2013年11月	東京本部を東京都新宿区に移転

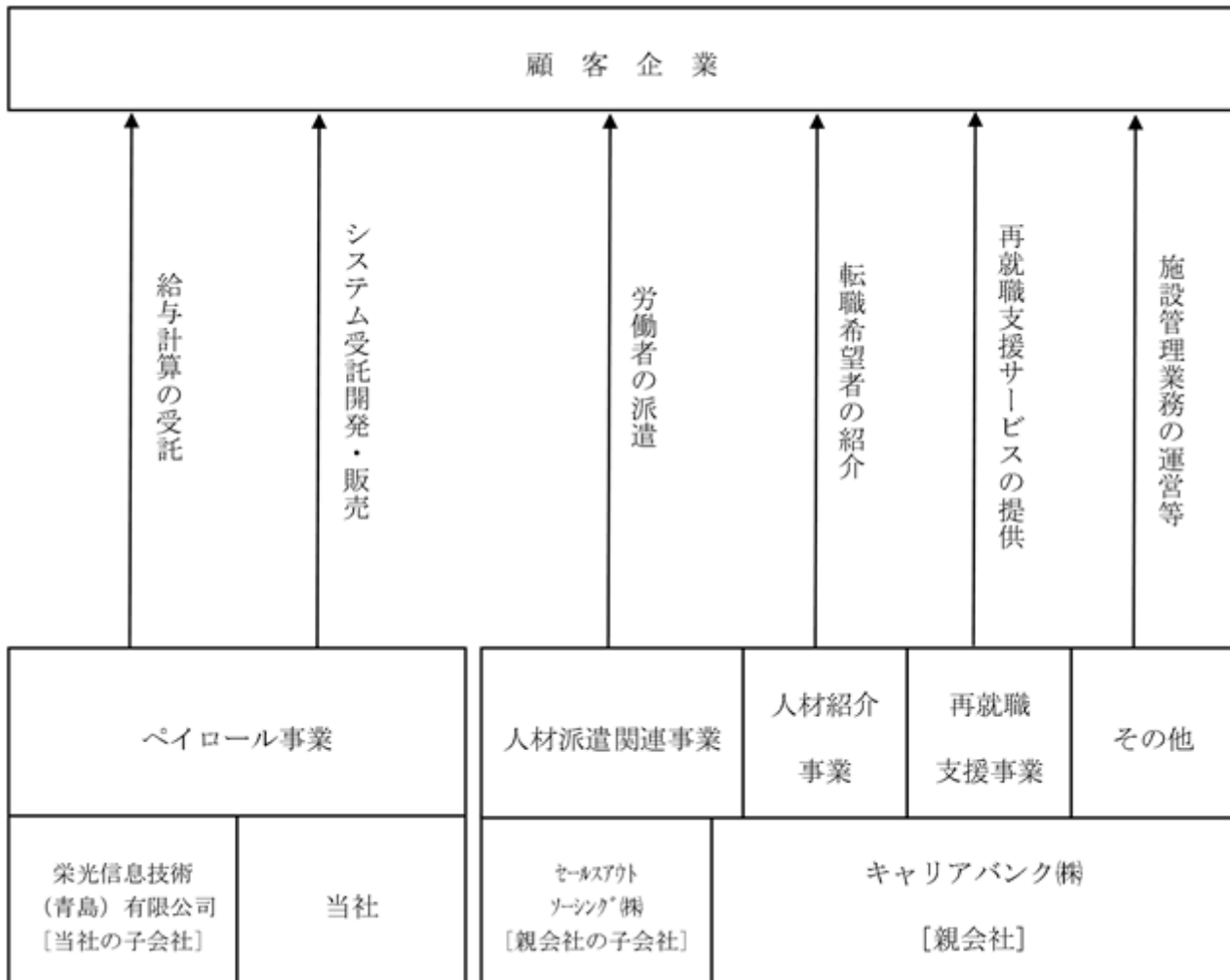
### 3【事業の内容】

当社グループ（当社及び当社の子会社）は、親会社であるキャリアバンク株式会社を中心とする企業グループに属しており、給与計算事務の代行を行う役割を担っております。

キャリアバンクグループは、経営理念として「信頼のお付き合いをモットーに社会のブレンたらん」を掲げており、採用・派遣・教育・再就職支援をはじめ、営業・販売・給与計算のアウトソーシング及びコンサルティングを通じて、お客様に最適なサービスをワンストップで提供することを目指しております。

なお、当社は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項 (セグメント情報等)」にあるとおり、ペイロール事業の単一セグメントとなっております。

〔事業系統図〕

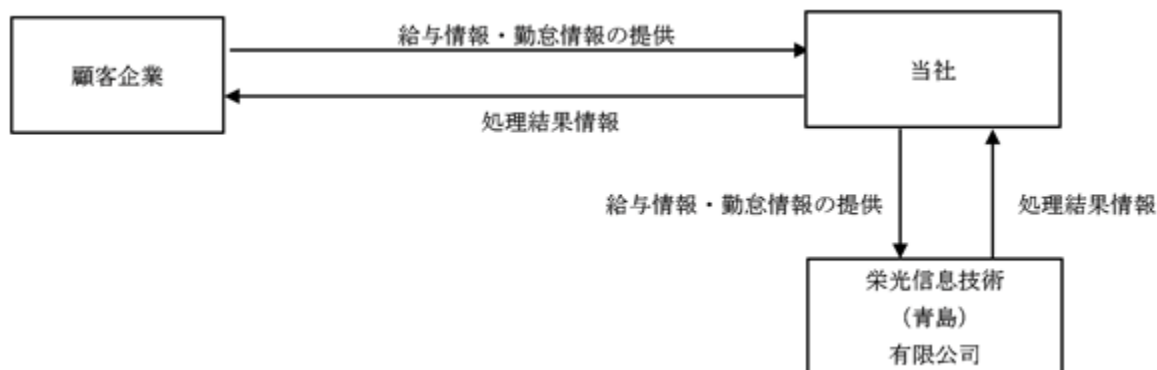


当社グループの事業区分は、ペイロール事業の単一セグメントであります。詳細については以下のとおりであります。

## ペイロール事業

### (1) 給与計算受託業務

顧客企業が従業員に対して給与を支給するために人事・総務・経理などの担当者が行う計算業務等を代行するサービスであり、アウトソーシングのひとつであるB・P・O（ビジネス・プロセス・アウトソーシング）です。具体的には、給与計算業務を受託する場合、まず事前に顧客企業独自の制度である給与体系等を把握し、当社内のコンピュータシステムに給与計算を行うための設定等の準備を行います。次に、顧客企業より給与計算に必要な社員情報や勤怠情報の提供を受け、給与計算コンピュータシステムに入力して給与の計算を行い、給与支払いを銀行振込で行うために銀行に送信するための振込データや、従業員本人に渡すための給与明細等、顧客企業で使用するための台帳や記帳情報等の資料を作成し、顧客企業へ提供する業務であります。



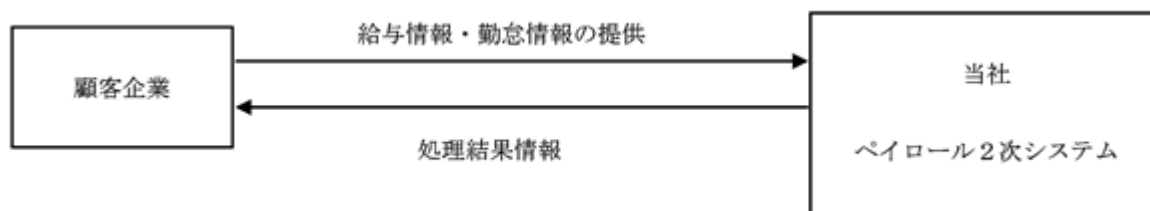
### (2) システムの受託開発・販売業務

給与計算受託業務に付帯したシステムの受託開発・販売をしております。

具体的には、次の2種類の業務があります。

#### ペイロール2次システムの開発

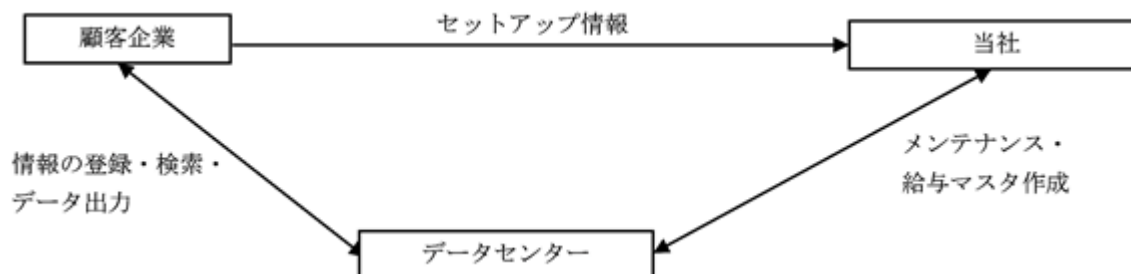
当社のコンピュータシステムでは実現（処理）できない顧客企業特有の要望に対応すべく顧客企業独自のシステムを開発しております。例えば、専用の帳票出力・経理仕訳用データの作成・有給休暇管理等のシステムがあります。



#### 人事管理システムの提供

従業員の適正な評価・把握の基となるための情報をデータとして管理できるシステムを提供しております。これは、社外のデータセンターで情報を管理するASP方式（顧客企業がシステムを購入するのではなく、使用料を支払い使用する方式）によるシステムであります。

また、このデータは、マスタ情報として給与計算コンピュータシステムに取り込むことが可能であります。



#### 4【関係会社の状況】

関係会社は次のとおりであります。

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合又は被所有割合(%)	関係内容
(親会社) キャリアバンク株式会社(注)	札幌市中央区	242百万円	人材派遣関連事業、 人材紹介事業、 再就職支援事業	被所有 51.5	給与計算業務の受託、 人材派遣の受入、人材 の紹介等 役員の兼任
(連結子会社) 栄光信息技术 (青島)有限公司	中国山東省 青島市	2,000千元	ペイロール事業	所有 100.0	給与計算業務の委託 役員の兼任

(注) 有価証券報告書を提出しております。

#### 5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2015年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
ペイロール事業	55(111)
合計	55(111)

(注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(パート社員「1人1日8時間換算」)は、年間の平均人員を( )外数で記載しております。

2. 当社は「第5経理の状況 1 連結財務諸表等(1)連結財務諸表 注記事項 (セグメント情報等)」にあるとおり、ペイロール事業の単一セグメントとなっております。

(2) 提出会社の状況

2015年3月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
44(111)	36.0	3.0	3,253,495

(注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(パート社員「1人1日8時間換算」)は、年間の平均人員を( )外数で記載しております。

2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

3. 当社は「第5経理の状況 1 連結財務諸表等(1)連結財務諸表 注記事項 (セグメント情報等)」にあるとおり、ペイロール事業の単一セグメントとなっております。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておませんが、労使関係は円満に推移しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、安倍政権の日本経済再生に向けた内需主導の経済政策により、回復傾向にあります。今後も日本銀行による金融政策や政府による成長戦略の効果に後押しされ、回復基調が続くと見られますが、中国をはじめとする海外経済は、先行き不透明な状況が続いており、わが国の景気を下押しするリスクに留意する必要があります。

当業界におきましては、このような景気不透明感や人材不足を背景に、依然として企業の効率化、省力化への動向は継続しており、今後、事業再構築の手段としてアウトソーシングのニーズはより一層高まっていくと考えております。

そこで当社グループは、経営方針にある「お客様への価値あるサービスの提供」として、顧客企業に対し給与計算に係る人材、時間等の経営資源をより価値の高い本来業務へ転換していただくことによるコストの削減、顧客企業内からの個人情報漏洩への対策等企業リスクの観点から、給与計算アウトソーシングの提案を行ってまいりました。同時に、給与計算に付随するシステム開発という付加価値サービスの提案を行ってまいりました。

以上の結果、当連結会計年度の業績については、売上高は778,117千円（前連結会計年度比22.6%増）、営業利益は42,290千円（前連結会計年度比356.3%増）、経常利益は44,661千円（前連結会計年度比349.6%増）、当期純利益は21,086千円（前連結会計年度は当期純損失1,192千円）となりました。

当社グループはペイロール事業の単一セグメントであるため、事業の種類別セグメント区分を行っておりません。この単一セグメントであるペイロール事業の業績は次のとおりであります。

当連結会計年度については、前連結会計年度に引き続き既存顧客との関係強化及び積極的な営業活動に取り組んできたことに加え、昨今の企業における人員需給逼迫により従前内製していた業務をアウトソーシングする傾向が非常に高まってきたことにより新規顧客57社の獲得となりました。この結果、前連結会計年度に比べ給与計算関連の売上高は22.7%増加、年末調整及び住民税関連の売上高は22.0%増加し、売上高合計では778,117千円（前連結会計年度比22.6%増）となりました。経費については、人件費の上昇はあったものの継続的な業務フローの改善及び販売費及び一般管理費の圧縮が図れたことにより売上高営業利益率は4.0%改善されました。この結果、営業利益は42,290千円（前連結会計年度比356.3%増）となりました。

#### (2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動による収入60,843千円があった一方、投資活動による支出60,920千円及び財務活動による支出7,929千円により前事業年度末に比べて7,636千円減少し、322,024千円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

##### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は60,843千円（前連結会計年度は35,881千円獲得）となりました。これは主に税金等調整前当期純利益の計上40,661千円、減価償却費の計上21,871千円によるものであります。

##### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は60,920千円（前連結会計年度は13,802千円使用）となりました。これは主に給与計算基幹システム購入に伴う有形固定資産の取得による支出10,101千円、無形固定資産の取得による支出22,082千円、並びに本社移転計画等に伴う敷金及び保証金の差入による支出31,859千円によるものであります。

##### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は7,929千円（前連結会計年度は4,438千円使用）となりました。これは配当金の支払いによるものであります。



## 2【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

当社グループは生産活動を行っておりませんので、該当事項はありません。

### (2) 受注状況

毎月定期的に給与計算を行うことにより売上が計上される継続取引であるため記載を省略しております。

### (3) 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2014年4月1日 至 2015年3月31日)	前年同期比(%)
ペイロール事業(千円)	778,117	122.6
合計(千円)	778,117	122.6

(注) 1. 最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 2013年4月1日 至 2014年3月31日)		当連結会計年度 (自 2014年4月1日 至 2015年3月31日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
三菱総研DCS株式会社	97,408	15.34	108,433	13.94

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### 3【対処すべき課題】

今後のわが国経済の見通しにつきましては、輸出環境の改善や各種政策の効果などを背景として景気回復基調が継続すると期待されるものの、海外景気の下振れによるリスクが引き続き存在し、当面予断を許さない状況が続くと見られます。それに伴い、企業は存続のために継続的な合理化努力を行いつつ、一方では、個人情報漏洩などの多岐に渡る企業リスクに対処しなければならないという非常に厳しい状況に晒されているといえます。

このような環境のもと、企業の講ずる合理化策、リスク回避策の一つがアウトソーシングであると思われます。アウトソーシングを活用することにより、管理間接部門のコスト削減が図れると同時に管理部門が本来行うべき業務への集中を図り合理化につなげることで、また、情報漏洩リスクの一部を回避することできることから、今後もアウトソーシングのニーズはますます高まっていくものと考えております。

このような企業のニーズに対し、当社は真のアウトソーサーとして常に質の高いサービスを大量に提供するために、以下の課題に取り組んでいく必要があると考えております。

#### (1) 業務のスピードアップ、成果物の量産

当社グループの主たる事業であるペイロール事業は、顧客の状況に合わせて給与計算を代行することにあります。個々の顧客に応じたシステムの構築を行い対応しておりますが、より効率を高め大量処理可能な業務フローを継続的に進化させていく必要があると考えております。

#### (2) 業務品質の向上

当社グループの主たる事業であるペイロール事業において、業務成果物の正確性は、顧客が当社に業務を委託する際の前提条件と考えております。また、多くの企業は個人情報漏洩対策を重要な課題として認識していることから、当社グループでは顧客の信頼確保のために、品質向上の仕組み・体制及び情報管理体制を強化してまいりたいと考えております。

#### (3) 優秀な人材の確保及び育成

少子高齢化に伴う労働人口の減少及び日本国内での景気回復に伴う人材不足により、アウトソーシングを活用する企業が増えております。そのため業務を受け入れる側のアウトソーサーは、業務量の増加に対応できる優秀な人材を確保する必要があります。当社グループでは国籍・年齢・性別を問わずに優秀な人材の確保・育成に努めるとともに、海外の子会社への業務移管を進めることにより、業務量の増加に対応できる体制を整える必要があると考えております。

#### (4) 災害等に関わるリスクの分散

今後、企業の災害等リスク回避の手段としてアウトソーシングのニーズが高まることが予想されます。当社グループでは企業のそのようなニーズに応えるため、災害等に備えてリスクの分散を行っておりますが、今後もさらなるリスク対策を強化していく必要があると考えております。

#### 4【事業等のリスク】

以下において、当社グループの事業展開その他に関するリスク要因となる可能性のある主な事項を記載しております。また、必ずしも事業上のリスクに該当しない事項につきましても、投資家の投資判断上重要であると考えられる事項につきましては、情報開示の観点から積極的に開示しております。なお、当社グループはこれらのリスク発生の可能性を認識した上で、その発生の回避及び発生した場合の対応に努める方針であります。以下の記載は当社グループの事業又は当社株式への投資に関するリスクを完全に網羅しているものではありませんので、ご注意ください。

なお、記載事項のうち将来に関する事項は、本報告書提出日現在（2015年6月26日現在）において当社が判断したものであります。

##### (1) 事業内容について

###### 事業内容と特定売上品目への依存について

当社グループの第18期（2014年4月1日から2015年3月31日まで）の売上高におきまして、主たる事業であるペイロール事業の売上高が100%であり、現状のように特定の事業への依存度が高い場合には、事業を多角化することでより安定した経営を行っていく方針をとることも考えられます。しかし当社グループの事業の特徴のひとつでもありますペイロール事業は、顧客との継続的な受託業務であり顧客社数の増加に伴い売上高に対する同事業の比率が高くなる傾向にあります。今後は第二の柱となるべき事業を育成していく方針ですが、事業の多角化及び収益の安定化が計画通りに進捗しない場合におきましては依然としてペイロール事業への依存度が高い状態が継続することになります。そのため、同事業の成長が鈍化した場合には、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

###### コンピュータシステムについて

当社グループの業務はコンピュータシステム・IT機器の使用を前提として成立しております。使用するコンピュータシステムは、データの集約化及び定期的なバックアップにより災害等によるシステムダウンに対する対策を講じておりますが、大規模な天災や火災、コンピュータウイルス、長時間の電力供給の停止、通信障害等の事由によりコンピュータシステムにおける重大なトラブルが生じた場合や社会的インフラ障害が長期間に及ぶ場合には、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

###### 個人情報漏洩について

当社グループの主たる事業であるペイロール事業においては、顧客企業からの給与支給に関する情報をはじめ多数の個人情報を扱っております。さらに顧客企業や提携先企業において機密保持を希望する情報なども個人情報に含まれるものと考えております。

当社グループでは、個人情報の管理について、各部門において厳格な管理に基づき個人情報の保護その取り扱いについて十分に留意しており、これまで個人情報の漏洩による問題は発生しておりません。また、当社は、2006年1月に財団法人日本情報処理開発協会（現 一般財団法人日本情報経済社会推進協会）が認定する「プライバシーマーク」を取得しております。しかし、個人情報漏洩のリスクは無くなるものではなく、もし顧客企業の従業員の個人情報が漏洩した場合、当該顧客企業、顧客企業の従業員への補償費用が発生することや、信用力の低下により既存の顧客企業及び将来の顧客企業との取引が減少することが想定され、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

###### アライアンスパートナーの拡充と業務拡大について

現在、社会保険労務士法人、BPO（Business Process Outsourcing）事業を営んでいる他のアウトソーサー等との相互受託により、互いの得意とする事業分野を最大限に活かした業務の分業を行い、効率的な事業活動を行う方針であります。何らかの影響により、当社グループとアライアンスパートナーとの関係が継続できない状況になった場合、業績に影響を及ぼす可能性があります。

###### 災害によるリスクについて

大規模な災害等により、郵便、宅配便等の通常の輸送手段が停止し、顧客への納品が出来なくなった場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。また、当社グループ業務はコンピュータシステム、プリンタ等のOA機器に依存する事を前提として成り立っており、天災による停電が発生した場合には業務に重大な支障が発生することにより、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

## (2) 組織上の問題について

### 将来的な人材の確保について

当社グループが事業拡大に伴う業務量の増加に対応し、かつ現在提供しているサービスの精度を維持し続けるためには、優秀な人材を確保すること及び継続的な社員教育により業務の精度を維持し続けることが経営上の重要な課題と考えております。今後の事業拡大に伴い、積極的に優秀な人材を採用し、社員教育を継続的に徹底していく方針ですが、当社グループの求める人材が十分に確保できなかった場合、社員教育を十分に行うことが出来なかった場合には、現在提供しているサービスの品質低下を招くことが想定され、業務の拡大に影響を及ぼす可能性があります。

### 小規模組織であることについて

当社グループは2015年3月末現在、取締役3名、監査役3名、従業員55名（パート社員を除く）と組織が小さく、内部管理体制も組織規模に応じたものとなっております。今後、事業の拡大に伴い、適切かつ十分な人的・組織的対応ができない場合、既存の人材の社外流出、病気等における長期休暇が生じた場合、当社グループの業務遂行に支障が発生する可能性や、当社グループの提供しているサービスの精度が低下する恐れがあります。当社グループでは事業の拡大に伴う増員を行うとともに、組織的に従業員同士の業務ノウハウの共有及び内部管理体制の一層の充実を進めていきます。

## (3) 外部環境・市場の動向について

### 競合他社の動向について

当社グループが提供するサービスは、高額な設備投資が不要であり、許認可や届出等が必要な業界ではなく規制等が少ない等の理由から、参入障壁が高いとは言えない事業であります。ある程度の資本力を持った他企業が新規に参入してきた場合には、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。当社グループにおきましては、大量のデータを正確かつ低コストで処理するために、専用のコンピュータシステムを構築し、ノウハウを蓄積してきており、現段階においては他社に対して優位性を有していると考えております。しかし、上記のような新規参入や価格競争の激化により、将来の事業展開やサービス面における競争力に影響を与える可能性があります。

### 税制、社会保険制度（健康保険、厚生年金保険、介護保険）の制度変更について

税制・社会保険制度等の大幅な変更があり、当社グループで使用している給与計算システムにおいて対応が出来ない場合、又はシステムの変更等に莫大な設備投資が必要な場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

### 総需要の低下について

将来的に総労働人口の減少により給与受給者が減少し、当社グループが行う給与計算業務の受託量が減少した場合には、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

### 中国での事業環境について

当社は2014年3月期において、日本でのアウトソーシングサービスの事務作業量拡大への対応及び中国のマーケット開拓を目的として中国山東省青島市に子会社を設立いたしました。今後、中国での事業展開が進んだ場合、人民元切り上げや人件費上昇によるコスト上昇、中国の法律や税制等の改定及びマーケット開拓の遅れにより、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

## (4) 業績の推移について

### 業績の変動について

直近の連結会計年度及び事業年度の業績は「第1企業の概況 1 主要な経営指標等の推移 (1) 連結経営指標等」及び「第1企業の概況 1 主要な経営指標等の推移 (2) 提出会社の経営指標等」に記載の通りであり、今後につきましても業績が大きく変動する可能性があります。

### 業績の季節変動について

当社グループの主たる事業であるペイロール事業は、顧客企業の月々の給与計算に付随して住民税改定、年末調整及び賞与計算等の業務を行います。そのなかでも10月から1月に行う年末調整業務の影響により、当社グループは下半期に売上高が偏重する傾向にあります。

この傾向は、急激に変化することはないと想定されますが、現行税制の改正及び年俸制が普及し、賞与支給慣習が変更になるなど顧客企業の給与支給環境が変わる場合は、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

なお、当連結会計年度における当社グループのペイロール事業の四半期会計期間及び通期の売上高の割合は、次のとおりであります。

	第18期（2015年3月期）			
	第1四半期 会計期間	第2四半期 会計期間	第3四半期 会計期間	第4四半期 会計期間
ペイロール事業 売上高（千円）	145,047	114,771	327,033	191,265
通期割合（％）	18.6	14.8	42.0	24.6

将来における収益の減少、又は純損失の計上の可能性について

当社グループは、当期において純利益を計上しておりますが、将来収益性を上げる、又は純損失を回避できることを保証することはできません。売上高に大幅な減少がない場合でも設備投資及び人的投資等により、収益減少の可能性があります。しかし、当社グループの主たる事業であるペイロール事業は、一度顧客を獲得すると、何らかの理由による委託解除が発生しない限り毎月定期的な売上高が発生することが想定できますので、突然の大幅な売上高減に伴う収益の減少の可能性は低いと考えられます。

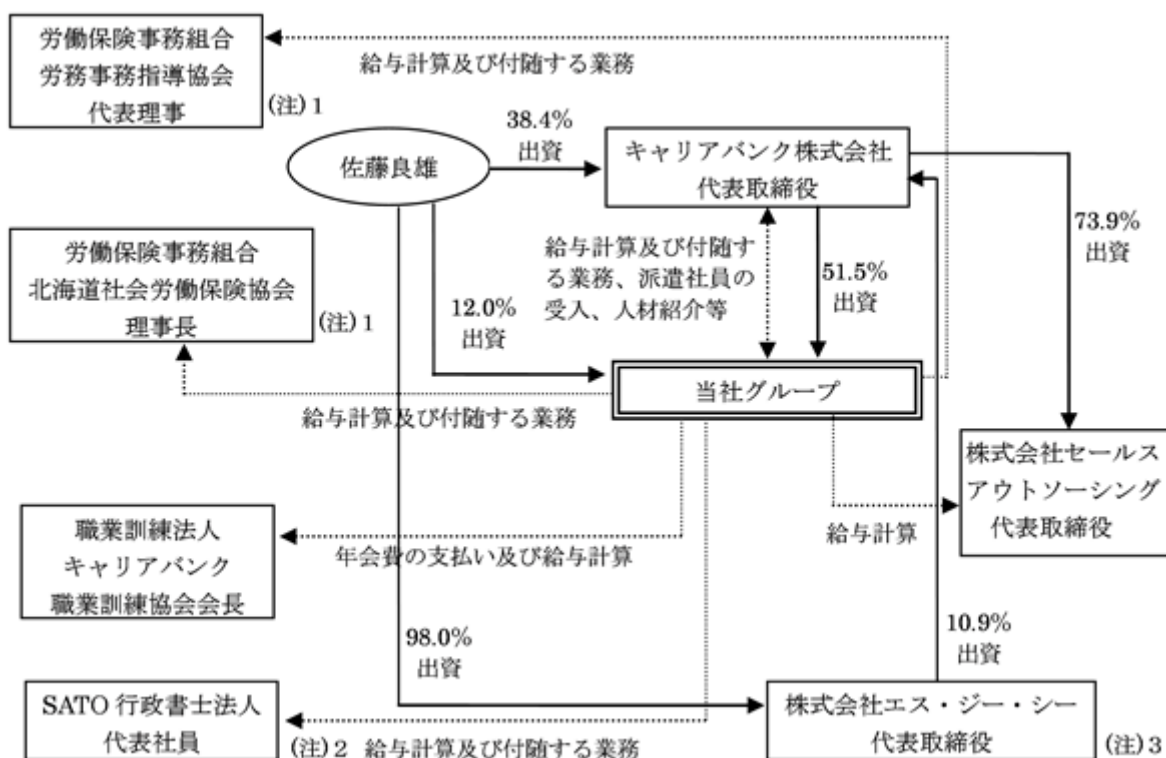
(5) 関連当事者について

特定人物への依存状態について

当社設立時の代表取締役社長であり、現在は親会社であるキャリアバンク株式会社及び同一の親会社を持つ会社である株式会社セールスアウトソーシングの代表取締役である佐藤良雄氏は、当社設立以前より行政書士事務所（現在の行政書士法人）及び複数の労働保険事務組合の代表者を兼務しております。

現在、佐藤良雄氏が関与している主な組織及びその一部と当社グループとの取引関係並びに佐藤良雄氏の当該組織における地位は下図のとおりであります。佐藤良雄氏が各組織への関与を止めた場合は、各組織との関係が希薄化し情報交流が途絶えるなど、今後の当社グループの経営に影響が及ぶ可能性があります。

なお、2015年3月31日現在の関係図は下記のとおりです。



(注) 1. 労働保険事務組合労務事務指導協会、労働保険事務組合北海道社会労働保険協会は、労働保険事務組合であります。労働保険事務組合とは厚生労働大臣の認可を受けて、企業及び事業主からの労働保険料の徴収及び徴収した労働保険料の国庫への納付を行うとともに、同事業主に対し労働保険事務の代行及び指導を行う団体のことをいいます。

2. S A T O行政書士法人は、官公庁へ提出する書類の作成を行う行政書士法人であります。

3. 株式会社エス・ジー・シーは経営コンサルティングを行っております。

関連当事者との取引について

当連結会計年度（2014年4月1日から2015年3月31日まで）における、当社グループと当社グループの属する企業グループとの関連当事者取引は、「第5経理の状況 1連結財務諸表等 注記事項 関連当事者情報」に記載のとおりであります。なお、「関連当事者の開示に関する会計基準」（企業会計基準第11号）による開示の対象となる取引以外を含む親会社及び同一の親会社を持つ会社との取引については以下のとおりであります。

イ．連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
親会社	キャリアバンク株式会社	札幌市中央区	242,557	人材派遣 人材紹介 再就職支援	(被所有) 直接 51.5 (注) 2	給与計算業務の受託・人材派遣の受入・人材の紹介等 役員の兼任	給与計算による売上	13,882	売掛金	1,006
							人材派遣	19,434	買掛金	1,473
							人材紹介	2,982	-	-
							研修費用	87	-	-
							その他	20	-	-

- (注) 1. 取引金額には消費税等は含まれておりません。なお、期末残高には消費税等が含まれております。  
2. 期末日における議決権等の被所有割合を表示しております。  
3. 上記取引におきましては、全て適正価格で取引を行っております。

ロ．連結財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
同一の親会社を持つ会社	株式会社セールスアウトソーシング	東京都新宿区	97,000	人材派遣	-	給与計算業務の受託	給与計算による売上	812	売掛金	51

- (注) 1. 取引金額には消費税等は含まれておりません。なお、期末残高には消費税等が含まれております。  
2. 上記取引におきましては、適正価格で取引を行っております。

親会社からの独立性について

キャリアバンク株式会社は、2015年3月31日現在、当社の発行済株式総数の51.5%を所有しておりますが、当社グループの経営、意思決定につきましては親会社であるキャリアバンク株式会社より完全に独立しております。そのため、当該株式所有関係があることにより同社が当社グループとの現在の取引関係を継続する旨の確約をしていることを保証するものではありません。現時点では、同社から給与計算業務を受託し、また派遣社員の受入、人材の紹介等を行っており、総売上高に占める同社への売上高比率は当連結会計年度においては1.8%となっております。さらには所有株式の売却などにより同社の出資比率が低下し資本的な関係が希薄となった場合、当社グループの事業に何らかの影響が生じる可能性があります。

キャリアバンク株式会社のグループ会社管理について

キャリアバンク株式会社は、連結経営管理の観点から「関係会社管理規程」を定め運用しておりますが、その目的はグループ各社の独自性と自立性を維持しつつ、グループ全体の企業価値の最大化を図ることにあります。当社グループも同規程の適用を受けており、当社取締役会において決議された事項等を報告しておりますが、取締役会決議事項の事前承認等は求められておらず、当社が独自に事業運営を行っております。

当社の取締役会を構成する取締役には、キャリアバンク株式会社の取締役及び従業員に該当する者はありません。

(6) その他について

新株予約権について

当社は、2013年6月25日開催の定時株主総会において、役員及び従業員等に対し業績向上へのインセンティブを高める目的としてストック・オプションの付与を決議し、2014年5月30日に新株予約権を付与しております。当社では、取締役、監査役及び従業員の士気向上、優秀な人材の確保のために今後もストック・オプション制度を継続する方針であります。したがって新株予約権の行使が行われた場合、当該株式の1株当たりの株式価値が希薄化し、株価形成に影響を及ぼす可能性があります。

## 5【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

## 6【研究開発活動】

該当事項はありません。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表はわが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。

重要となる会計方針については、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等(1) 連結財務諸表 注記事項 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」及び「第5 経理の状況 2 財務諸表等(1) 財務諸表 注記事項 重要な会計方針」に記載のとおりであります。

### (2) 当連結会計年度の経営成績の分析

売上高は778,117千円(前連結会計年度比22.6%増)、営業利益は42,290千円(同356.3%増)、経常利益は44,661千円(同349.6%増)、また当期純利益につきましては、21,086千円(前連結会計年度は当期純損失1,192千円となりました)。

#### (売上高)

売上高は前連結会計年度と比較して143,249千円増加し778,117千円となりました。

ペイロール事業においては、前事業年度に引き続き既存顧客との関係強化及び積極的な営業活動に取り組んできたことに加え、昨今の企業における人員需給逼迫により従前内製していた業務をアウトソーシングする傾向が非常に高まってきたことにより新規顧客57社の獲得となりました。この結果、前連結会計年度に比べ給与計算関連の売上高は22.7%増加、年末調整及び住民税関連の売上高は22.0%増加し、売上高合計では778,117千円(前連結会計年度比22.6%増)となりました。

#### (売上原価)

売上原価は前連結会計年度と比較して107,230千円増加し573,481千円となりました。これは主に継続的な業務フローの改善等があった一方、売上増加に伴う人件費の上昇があったこと等によるものです。

その結果、売上総利益は204,635千円となりました。

#### (販売費及び一般管理費)

販売費及び一般管理費は前連結会計年度と比較して2,996千円増加し162,344千円となりました。これは主に業務量増大に対応するための人員採用等が発生したことによるものです。

その結果、営業利益は42,290千円となりました。

#### (営業外収益及び営業外費用)

営業外収益は前連結会計年度と比較して1,039千円増加し2,371千円となりました。これは主に為替差益の発生によるものです。なお、営業外費用はありませんでした(前連結会計年度は666千円)。

その結果、経常利益は44,661千円となりました。

#### (特別利益及び特別損失)

特別利益はありませんでした。特別損失は前連結会計年度と比較して1,805千円増加し4,000千円となりました。これは受託業務補償負担金の発生によるものです。

#### (法人税、住民税及び事業税及び法人税等調整額)

法人税、住民税及び事業税は前連結会計年度と比較して10,740千円増加し20,360千円となりました。また、法人税等調整額は前連結会計年度と比較して97千円減少し 785千円となりました。

その結果、当期純利益は21,086千円となりました。



(3) 当連結会計年度の財政状態の分析

(流動資産)

流動資産は、前連結会計年度と比較して8,245千円増加し390,612千円となりました。これは主に現金及び預金が7,636千円減少した一方、売掛金が11,513千円増加したこと及びその他流動資産が3,457千円増加したことによるものであります。

(固定資産)

固定資産は、前連結会計年度と比較して68,562千円増加し130,410千円となりました。これは主に建設仮勘定の取得9,986千円、ソフトウェア仮勘定の取得30,939千円及び敷金及び保証金の増加27,783千円によるものであります。

(流動負債)

流動負債は、前連結会計年度と比較して56,597千円増加し95,760千円となりました。これは主に未払金の増加26,678千円、その他流動負債の増加20,707千円及び未払法人税等の増加7,553千円によるものであります。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度と比較して18,253千円増加し422,693千円となりました。これは主に利益剰余金の増加13,128千円及びその他有価証券評価差額金の増加3,503千円によるものであります。

(4) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

キャッシュ・フローの状況

キャッシュ・フローについては、「第2事業の状況 1.業績等の概要 (2)キャッシュ・フロー」に記載のとおりであります。

財務政策

運転資金及び設備資金については、自己資金及び銀行等からの短期的な借入により対応しております。今後事業拡大に伴い資金需要が発生した場合には、状況に応じた最適な資金の調達方法を選択していく方針です。

(5) 経営者の問題認識と今後の方針について

当社グループの経営陣は、現在の事業環境及び入手可能な情報に基づき最善の経営方針を立案するよう努めておりますが、当社グループを取り巻く環境は、現在のめまぐるしい環境の変化や諸経済情勢に影響を受ける可能性があります。このため常に環境の変化に対処すべく、業務のスピードアップ、業務品質の向上及び優秀な人材の確保を図り業務基盤を強化していく方針であります。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当社グループでは、ペイロール事業の業務処理体制を強化するため、総額57,163千円の設備投資を行いました。その内容は主に、給与計算基幹システムの購入によるもので有形固定資産として建設仮勘定9,986千円、無形固定資産としてソフトウェア仮勘定30,939千円を計上しております。

なお、当連結会計年度において重要な設備の除却、売却等はありません。

#### 2【主要な設備の状況】

提出会社

当社における主要な設備は、以下のとおりであります。

2015年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額				従業員数 (人)
			工具、器具 及び備品 (千円)	ソフトウェ ア (千円)	その他 (千円)	合計 (千円)	
本社 (札幌市東区)	ペイロール事業	給与計算システム	13	147	37,894	38,055	44  (111)
本社 (札幌市東区)	ペイロール事業	年末調整システム	1,028	27,836	-	28,864	

(注) 1. 帳簿価格「その他」は、建設仮勘定及びソフトウェア仮勘定であります。

2. 金額には消費税等は含まれておりません。

3. 現在休止中の設備はありません。

4. 従業員数の( )は、臨時雇用者数を外書しております。

5. 本社、東京本部及び大阪営業所の建物は賃借しており、年間賃借料は26,970千円であります。

#### 3【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資については、景気予測、関連法令の改正、投資効率等を総合的に勘案して設備計画については原則的に連結会社各社が個別に策定しておりますが、計画策定に当たっては提出会社を中心に調整を図っております。

なお、当連結会計年度末現在における重要な設備の新設、改修計画は次のとおりであります。

##### (1)重要な設備の新設

会社名 事業所名	所在地	セグメント の名称	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び完了予定年月		完成後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了	
提出会社 本社	札幌市東区	ペイロール 事業	給与計算 システム	37	37	自己資金	2014.7	2015.5	注2

(注) 1. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

2. 完成後の増加能力は、生産設備の更新・維持・効率向上を目的とするものでありますが、完成後の増加能力は合理的に算出することが困難なため、記載を省略しております。

##### (2)重要な改修

該当事項はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	2,000,000
計	2,000,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (2015年3月31日)	提出日現在発行数(株) (2015年6月26日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	795,800	795,800	札幌証券取引所 アンビシヤス	単元株式数 100株
計	795,800	795,800	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

会社法に基づき発行した新株予約権は、次のとおりであります。

2014年5月16日取締役会決議

	事業年度末現在 (2015年3月31日)	提出日の前月末現在 (2015年5月31日)
新株予約権の数(個)	162	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	16,200	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)	661	同左
新株予約権の行使期間	自 2016年7月1日 至 2021年6月30日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 661 資本組入額 331	同左
新株予約権の行使の条件	<p>新株予約権者は権利行使の時点においても、当社又は当社子会社の取締役、監査役もしくは従業員その他これに準ずる地位にあることを要する。</p> <p>その他の行使の条件は、取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する「新株予約権割当契約」に定めるところによる。</p>	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	当社取締役会の承認を要するものとする。	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-	-

(注)1. 当社が株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により目的となる株式の数を調整するものとします。ただし、かかる調整は、本新株予約権のうち、当該時点で権利行使されていない新株予約権の目的となる株式の数について行われ、調整の結果1株未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとします。

調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割・併合の比率

また、上記のほか、新株予約権の割当日後、目的となる株式の数の調整を必要とするやむを得ない事由が生じたときは、合理的な範囲内で当社が必要と認める目的となる株式の数の調整を行います。

2. 当社が株式分割又は株式併合を行う場合、次の算式により行使価額を調整し、調整の結果生じる1円未満の端数は切り上げるものとします。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、当社が当社普通株式につき、時価を下回る価額で新株の発行又は自己株式を処分する場合（ただし、当社普通株式の交付と引換えに当社に取得される証券もしくは当社に対して取得を請求できる証券、当社普通株式の交付を請求できる新株予約権の行使によるものは除く。）は次の算式により行使価額を調整し、調整の結果生じる1円未満の端数は切り上げるものとします。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行普通株式数} \times \text{1株当たり払込金額}}{\text{新規発行前の普通株式の株価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行普通株式数}}$$

なお、上記の算式において「既発行株式数」は、当社の発行済普通株式総数から当社が保有する普通株式に係る自己株式数を控除した数とし、また、自己株式の処分を行う場合には、「新規発行普通株式数」を「処分する自己株式数」に、「新規発行前の普通株式の株価」を「処分前普通株式の株価」に、それぞれ読み替えるものとします。

また、当社が資本の減少、合併又は会社分割等、目的となる株式の数の調整を必要とするやむを得ない事由が生じたときは、合理的な範囲内で行使価額を調整するものとします。

- (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】  
該当事項はありません。

- (4) 【ライツプランの内容】  
該当事項はありません。

- (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
2010年4月1日～ 2011年3月31日 (注)1	20	3,379	830	215,570	830	61,810
2011年4月1日～ 2012年3月31日 (注)1	22	3,401	913	216,483	913	62,723
2012年4月1日～ 2013年3月31日 (注)1	537	3,938	26,637	243,120	15,373	78,096
2013年4月1日～ 2014年3月31日 (注)1	41	3,979	1,701	244,822	1,701	79,798
2014年4月1日～ 2015年3月31日 (注)2	791,821	795,800	-	244,822	-	79,798

(注)1. 新株予約権の行使による増加であります。

2. 2014年4月1日付をもって1株を200株に株式分割し、発行済株式総数が791,821株増加しております。

(6) 【所有者別状況】

2015年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	1	3	15	1	-	238	258	-
所有株式数(単元)	-	20	22	4,447	39	-	3,430	7,958	-
所有株式数の割合(%)	-	0.25	0.28	55.88	0.49	-	43.10	100	-

(7) 【大株主の状況】

2015年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
キャリアバンク株式会社	札幌市中央区北5条西5丁目7	410,200	51.54
佐藤 良雄	札幌市中央区	94,600	11.88
熊谷 浩二	札幌市中央区	34,000	4.27
目時 伴雄	さいたま市北区	31,800	3.99
稲熊 章男	愛知県西尾市	23,500	2.95
山鹿 時子	札幌市中央区	14,000	1.75
SBIビジネス・ソリューションズ株式会社	東京都港区六本木1丁目6-1泉ガーデンタワー17F	12,200	1.53
加藤 憲一	愛知県犬山市	9,200	1.15
近澤 清次	栃木県佐野市	9,200	1.15
細川 賢一	静岡県富士市	6,600	0.82
計	-	645,300	81.09

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2015年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 795,800	7,958	-
単元未満株式	-	-	-
発行済株式総数	795,800	-	-
総株主の議決権	-	7,958	-

【自己株式等】

該当事項はありません。

( 9 ) 【ストックオプション制度の内容】

当社は、ストックオプション制度を採用しております。当該制度は、会社法に基づき新株予約権を発行する方法によるものであります。

当該制度の内容は、以下のとおりであります。

( 2014年 5月16日取締役会決議 )

会社法に基づき、当社取締役、監査役及び当社使用人に対して新株予約権を発行することを2014年 5月16日開催の取締役会において決議されたものであります。

決議年月日	2014年 5月16日
付与対象者の区分及び人数(名)	取締役 2名、監査役 1名、使用人23名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2) 新株予約権等の状況」に記載しております。
株式の数(株)	同上
新株予約権の行使時の払込金額(円)	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

### (1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

### (3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

### (4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

該当事項はありません。

## 3【配当政策】

当社は、利益還元を経営上の重要な課題と考えておりますが、将来の事業拡大に備え、内部留保による企業体質の強化を図りながら、業績に応じて株主に対し安定した配当を維持していくことを利益配分に関する基本方針としております。

当社の剰余金の配当は、年1回の期末配当を行うこととしており、配当の決定機関は株主総会であります。当事業年度の配当につきましては、上記方針に基づき、1株につき12円といたしました。

内部留保資金につきましては、今後の事業拡大を図るための有効な投資に充当していきたいと考えております。

なお、当社は、「取締役会決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
2015年6月25日 定時株主総会決議	9,549	12

## 4【株価の推移】

### (1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第14期	第15期	第16期	第17期	第18期
決算年月	2011年3月	2012年3月	2013年3月	2014年3月	2015年3月
最高(円)	102,000	112,000	110,000	210,000 672	780
最低(円)	69,700	84,000	80,500	91,100 650	520

(注) 1. 最高・最低株価は札幌証券取引所アンビシャスにおけるものであります。

2. 印は、株式分割(2014年4月1日、1株 200株)による権利落後の最高・最低株価を示しております。

### (2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	2014年10月	2014年11月	2014年12月	2015年1月	2015年2月	2015年3月
最高(円)	610	603	610	630	680	760
最低(円)	571	550	551	563	610	654

(注) 1. 最高・最低株価は、札幌証券取引所アンビシャスにおけるものであります。



5【役員の状況】

男性 6名 女性 -名 (役員のうち女性の比率-%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 社長		熊谷 浩二	1971年4月10日生	1995年4月 株式会社さくら銀行(現株式会社三井住友銀行)入社 2004年2月 当社入社 管理部長就任 2004年2月 取締役就任 管理部長 2004年6月 代表取締役社長就任(現任) 2013年5月 栄光情報技術(青島)有限公司董事長兼總經理就任(現任)	(注)2	34,000
取締役	管理部長	荒谷 努	1974年2月1日生	1996年4月 セントラル自動車株式会社(現 トヨタ自動車東日本株式会社)入社 2001年11月 京セラタイム株式会社(現 京セラ株式会社)入社 2004年4月 当社入社 2008年6月 管理部管理課長 2012年4月 執行役員管理部長 2013年5月 栄光情報技術(青島)有限公司董事就任(現任) 2013年6月 取締役就任 管理部長(現任)	(注)2	2,000
取締役	営業部長	生垣 公彦	1962年6月15日生	2008年2月 ソフトブレン株式会社 ニュービジネス推進室長 2008年5月 同社 BPO推進部部长 2009年6月 当社入社 営業部東京カスタマーセンター課長 2012年6月 営業部長 2014年6月 栄光情報技術(青島)有限公司董事就任(現任) 2014年6月 取締役就任 営業部長(現任)	(注)2	-
常勤監査役		鈴木 豊	1952年3月1日生	2003年10月 日北酸素株式会社入社 2004年10月 当社入社 2004年12月 監査役就任(現任)	(注)3	3,000
監査役		新谷 隆俊	1956年4月3日生	1990年8月 キャリアバンク株式会社入社 1996年7月 同社 取締役就任 2000年6月 同社 取締役営業部長 2002年7月 株式会社セールスアウトソーシング監査役就任 2003年5月 当社監査役就任(現任) 2009年8月 キャリアバンク株式会社 常務取締役就任 営業部長(現任)	(注)3	2,000
監査役		小林 董和	1946年1月31日生	1969年4月 北海道庁 入庁 1998年6月 同庁 総合企画部経済企画室長 2001年6月 株式会社苫東 代表取締役社長 2003年6月 北海道庁 経済部長 2005年5月 株式会社つうけんアクト 取締役副社長 2007年6月 株式会社つうけん 顧問 2007年6月 当社監査役就任(現任) 2008年3月 つうけんビジネス株式会社 代表取締役就任 2012年5月 同社 取締役会長就任 2013年5月 同社 取締役会長退任	(注)4	-
計						41,000

- (注)1. 監査役 小林 董和氏は、社外監査役であります。  
2. 2015年6月25日開催の定時株主総会の終結の時から1年間  
3. 2013年6月25日開催の定時株主総会の終結の時から4年間  
4. 2015年6月25日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

## 6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### 企業統治の体制

##### イ. 企業統治の体制の概要

当社グループでは、数年前より浸透してきた考え方である企業活動におけるコーポレート・ガバナンス、コンプライアンスの思想や、近年におきましては加えてCSR、ビジネスエシックスといった企業としての社会貢献や社会的責任、役員及び従業員個人の倫理についての考え方を重視しております。これらの考え方を含め、社会に適應した企業経営を実施するための企業体質を構築することがコーポレート・ガバナンスであると位置づけ、グループをあげて取り組むべき課題であると考えております。

企業統治の体制としましては本報告書提出日現在（2015年6月26日現在）、取締役会は3名の取締役で構成されており、業務の意思決定だけでなく、取締役による職務執行に対する監督を行い、業務を適法にかつ定款及び経営方針に従い執行しているか、規程を遵守しているか等の監視機能を果たしております。

##### ロ. 企業統治の体制を採用する理由

上記の考え方により、当社グループは経営の透明性を高めるとともに事業環境の変化に迅速に対応できる体制の充実が重要であると考えております。事業環境の変化に迅速に対応するためには経営判断のスピードが必要であります。当社は企業規模が比較的小規模であり、取締役の人数も少数のため、迅速に取締役会の開催が可能で、経営判断を必要とする重要事項に対しては速やかな取締役会を行う体制により、迅速な経営判断を行うことを心掛けております。

##### ハ. 内部統制システムの整備の状況

通常取締役会は、経営の基本方針、法令で定められた事項、その他経営に関する重要事項を決定する機関として、監査役も出席のもと、毎月1回程度開催しています。また、必要に応じて臨時取締役会を随時開催し、重要事項の決定に際し効率的かつ慎重な経営判断がなされるよう、業務執行状況を監督しております。

会計監査については、有限責任監査法人トーマツと監査契約を結び、金融商品取引法に基づく会計監査を受けております。税務関連業務に関しましては、光成勇人税理士事務所と契約を結び、各種税務に関する業務が適法に遂行されているかを確認できる環境にあります。また、法律上の問題に関しましては、顧問契約を締結している村松法律事務所へ相談できる環境にあります。

##### ニ. リスク管理体制整備の状況

当社は企業規模が比較的小規模であるため、迅速に取締役会の開催が可能であり、総合的なリスク管理については取締役会において討議しております。当社にとって情報セキュリティが最重要課題であると考えており、個人情報保護法をはじめとする法令の遵守と社内の運用ルールの徹底に努めております。

#### 内部監査及び監査役監査の状況

内部監査は、代表取締役社長直轄の社長室（1名専任）が内部監査規程に基づき各部門の内部監査を行い、社長室の監査については管理部が行っております。

監査役監査については、3名の監査役（うち1名は常勤監査役）は、取締役会に出席し、その内容と結果について監査を行い、取締役の職務執行を監視しております。また、会社法に基づく会計監査を受けております。なお、監査役は内部監査及び監査法人と相互に連携して、内部統制を管理しております。

#### 社外監査役

当社の社外監査役は1名であります。

社外監査役小林董和氏と当社との間に人的関係、資本的關係はありません。小林董和氏が取締役会長を務めておりましたつうけんビジネス株式会社と当社との間には什器備品の購入等の取引はあるものの、その他利害関係は一切ありません。

社外監査役は取締役会に出席し、他社での会社経営及び業務経験を活かし、客観的中立の立場から取締役会の内容とその結果について監査を行い、取締役の業務執行を監視しております。

また、経営陣との間に特別な利害関係を有しておらず、特定の利害関係者の利益に偏らず適正に監視できる立場にあることから社外監査役に選任しており、且つ、一般株主と利益相反の生じる恐れがないことから札幌証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同証券取引所に届出をしております。

社外監査役による監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携について、内部監査との連携は常勤監査役を通じて内部監査部門である社長室から内部監査に関する報告を受けていること、監査役監査との連携は常勤監査役から適宜報告を受け助言を行うこと、会計監査との連携は常勤監査役を通じて監査法人から会計監査に関する報告を受けることにより行っております。

社外監査役による監査と内部統制部門との関係について、社外監査役は常勤監査役を通じて内部統制部門から適宜報告、説明を受け、必要に応じて説明を求めています。

当社は社外取締役は選任していませんが、経営の意思決定機関である取締役会に対し、監査役3名中の1名を社外監査役とすることにより経営への監視を行うことで経営監視機能は十分に機能する体制が整っているため、現状の体制としております。

当社は、社外監査役を選任するための独立性に関する基準又は方針として明確に定めたものではありませんが、選任にあたっては、経歴や当社との関係を踏まえて、当社経営陣からの独立した立場で社外役員としての職務を遂行できる十分な独立性が確保できることを前提に判断しております。

#### 役員報酬等

##### イ. 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	
取締役 (社外取締役を除く。)	24,569	22,170	503	1,850	4
監査役 (社外監査役を除く。)	4,091	3,690	137	310	1

(注) 非常勤監査役1名及び社外監査役1名は無報酬であるため記載していません。

##### ロ. 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

1997年3月31日開催の創立総会において決議された年間報酬限度額の範囲内で、経営内容、経済情勢、従業員給与とのバランス等を考慮して、取締役の報酬は取締役会の決議により決定し、監査役の報酬は監査役協議により決定しております。なお、取締役の報酬額は年額80,000千円以内、監査役の報酬額は年額20,000千円以内となっております。

株式の保有状況

イ．投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額  
4 銘柄 10,655千円

ロ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額の合計額及び保有目的  
前連結会計年度  
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計額 (千円)	保有目的
S Dエンターテイメント㈱ (旧 ㈱ゲオディノス)	5,000	3,210	協力関係維持のため

当連結会計年度  
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計額 (千円)	保有目的
S Dエンターテイメント㈱ (旧 ㈱ゲオディノス)	5,000	7,360	協力関係維持のため

ハ．保有目的が純投資目的である投資株式の前連結会計年度及び当連結会計年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当連結会計年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額

	前連結会計年度 (千円)	当連結会計年度(千円)			
	貸借対照表計 上額の合計額	貸借対照表計 上額の合計額	受取配当金 の合計額	売却損益 の合計額	評価損益 の合計額
非上場株式	-	-	-	-	-
上記以外の株式	1,130	2,049	51	-	1,683

#### 会計監査の状況

当社グループの会計監査を行なっている有限責任監査法人トーマツ及びその業務執行社員と当社との間には特別な利害関係はありません。当社と有限責任監査法人トーマツの間では、金融商品取引法監査について監査契約を締結し、それに基づいて報酬を支払っております。当社グループの監査業務を執行した公認会計士は、業務執行社員の香川順氏及び五十嵐康彦氏、会計監査業務に係る補助者は、公認会計士5名、その他3名であります。なお、業務執行社員の継続監査年数はいずれも7年以内であります。

#### 取締役の定数

当社の取締役は、10名以内とする旨を定款に定めております。

#### 自己株式取得の決定機関

当社は、会社法第165条第2項の規定に基づき、機動的な資本政策を遂行することを目的として、取締役会の決議により自己株式を市場取引等により取得することができる旨を定款で定めております。

#### 取締役及び監査役の責任免除規定並びに社外取締役及び社外監査役の責任限定契約

当社は、取締役及び監査役がその期待される役割を十分に発揮できることを目的とし、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役及び監査役（取締役及び監査役であった者を含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨を定款で定めております。また、会社法第427条第1項の規定により、社外取締役及び社外監査役との間に、任務を怠ったことによる損害賠償責任を限定する契約を締結することができる旨を定款で定めております。ただし、当該契約に基づく責任の限度額は、法令が規定する最低責任限度額以上とする旨を定款で定めております。

#### 中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

#### 取締役の選任及び解任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款に定めております。また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

解任決議については、議決権を行使することができる株主の議決権の過半数以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

#### 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	10,200	-	9,300	-
連結子会社	-	-	-	-
計	10,200	-	9,300	-

【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありません。

## 第5【経理の状況】

### 1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（2014年4月1日から2015年3月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（2014年4月1日から2015年3月31日まで）の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる監査を受けております。

### 3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、また会計基準等の変更についての的確に対応するため、株式会社税務研究会発行の週刊経営財務等を定期購読し、監査法人等が主催する外部セミナーへ参加しております。

## 1【連結財務諸表等】

## (1)【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2014年3月31日)	当連結会計年度 (2015年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	329,661	322,024
売掛金	49,077	60,591
繰延税金資産	1,428	2,170
その他	2,778	6,235
貸倒引当金	579	409
流動資産合計	382,366	390,612
固定資産		
有形固定資産		
工具、器具及び備品(純額)	12,917	10,179
建設仮勘定	-	9,986
その他(純額)	3,242	1,816
有形固定資産合計	16,159	21,983
無形固定資産		
ソフトウェア	32,935	31,880
ソフトウェア仮勘定	-	30,939
無形固定資産合計	32,935	62,819
投資その他の資産		
投資有価証券	7,635	12,704
敷金及び保証金	5,108	32,892
その他	10	10
投資その他の資産合計	12,753	45,606
固定資産合計	61,848	130,410
資産合計	444,215	521,022
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	6,850	8,507
未払金	3,559	30,238
未払法人税等	9,543	17,096
その他	19,210	39,918
流動負債合計	39,163	95,760
固定負債		
繰延税金負債	611	2,568
固定負債合計	611	2,568
負債合計	39,775	98,329
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	244,822	244,822
資本剰余金	79,798	79,798
利益剰余金	77,759	90,888
株主資本合計	402,379	415,508
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,120	4,624
為替換算調整勘定	939	924
その他の包括利益累計額合計	2,059	5,548
新株予約権	-	1,635
純資産合計	404,439	422,693
負債純資産合計	444,215	521,022



## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2013年4月1日 至 2014年3月31日)	当連結会計年度 (自 2014年4月1日 至 2015年3月31日)
売上高	634,867	778,117
売上原価	466,251	573,481
売上総利益	168,616	204,635
販売費及び一般管理費	159,347	162,344
営業利益	9,268	42,290
営業外収益		
受取利息	164	173
受取配当金	51	351
為替差益	-	819
業務受託手数料	625	619
受取補償金	269	367
その他	220	39
営業外収益合計	1,331	2,371
営業外費用		
為替差損	666	-
営業外費用合計	666	-
経常利益	9,933	44,661
特別損失		
受託業務補償負担金	2,194	4,000
その他	-	0
特別損失合計	2,194	4,000
税金等調整前当期純利益	7,739	40,661
法人税、住民税及び事業税	9,620	20,360
法人税等調整額	688	785
法人税等合計	8,932	19,575
少数株主損益調整前当期純利益又は少数株主損益調整前当期純損失( )	1,192	21,086
当期純利益又は当期純損失( )	1,192	21,086

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2013年4月1日 至 2014年3月31日)	当連結会計年度 (自 2014年4月1日 至 2015年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益又は少数株主損益調整前当期純損失( )	1,192	21,086
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,116	3,503
為替換算調整勘定	939	14
その他の包括利益合計	2,055	3,489
包括利益	862	24,575
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	862	24,575
少数株主に係る包括利益	-	-

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2013年4月1日 至 2014年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	243,120	78,096	86,828	408,045
当期変動額				
新株の発行	1,701	1,701		3,403
剰余金の配当			7,876	7,876
当期純損失（ ）			1,192	1,192
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）				
当期変動額合計	1,701	1,701	9,068	5,665
当期末残高	244,822	79,798	77,759	402,379

	その他の包括利益累計額			新株予約権	純資産合計
	その他有価 証券評価差 額金	為替換算調 整勘定	その他の包 括利益累計 額合計		
当期首残高	3	-	3	-	408,049
当期変動額					
新株の発行					3,403
剰余金の配当					7,876
当期純損失（ ）					1,192
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	1,116	939	2,055	-	2,055
当期変動額合計	1,116	939	2,055	-	3,610
当期末残高	1,120	939	2,059	-	404,439

当連結会計年度（自 2014年4月1日 至 2015年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	244,822	79,798	77,759	402,379
当期変動額				
新株の発行				-
剰余金の配当			7,958	7,958
当期純利益			21,086	21,086
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）				
当期変動額合計	-	-	13,128	13,128
当期末残高	244,822	79,798	90,888	415,508

	その他の包括利益累計額			新株予約権	純資産合計
	その他有価 証券評価差 額金	為替換算調 整勘定	その他の包 括利益累計 額合計		
当期首残高	1,120	939	2,059	-	404,439
当期変動額					
新株の発行					-
剰余金の配当					7,958
当期純利益					21,086
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	3,503	14	3,489	1,635	5,124
当期変動額合計	3,503	14	3,489	1,635	18,253
当期末残高	4,624	924	5,548	1,635	422,693

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2013年4月1日 至 2014年3月31日)	当連結会計年度 (自 2014年4月1日 至 2015年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	7,739	40,661
減価償却費	21,895	21,871
売上債権の増減額(は増加)	181	11,513
営業債務の増減額(は減少)	759	1,656
未払費用の増減額(は減少)	1,747	3,804
未払消費税等の増減額(は減少)	5,976	14,617
その他	1,283	2,597
小計	36,088	73,695
法人税等の支払額	1,541	13,033
法人税等の還付額	1,119	-
その他	216	180
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>35,881</b>	<b>60,843</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	12,902	10,101
無形固定資産の取得による支出	1,042	22,082
敷金及び保証金の差入による支出	2,953	31,859
敷金及び保証金の回収による収入	3,096	3,122
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>13,802</b>	<b>60,920</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
株式の発行による収入	3,403	-
配当金の支払額	7,841	7,929
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>4,438</b>	<b>7,929</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	458	370
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	18,099	7,636
現金及び現金同等物の期首残高	311,561	329,661
現金及び現金同等物の期末残高	329,661	322,024

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項
  - 連結子会社の数 1社
  - 主要な連結子会社の名称  
栄光情報技術(青島)有限公司
2. 連結子会社の事業年度等に関する事項
  - 栄光情報技術(青島)有限公司の決算日は12月31日であります。
  - 連結財務諸表の作成に当たっては、連結決算日現在で本決算に準じた仮決算を行った財務諸表を基礎としております。
3. 会計処理基準に関する事項
  - (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法
    - 有価証券
      - 其他有価証券
        - 時価のあるもの
          - 決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。
        - 時価のないもの
          - 移動平均法による原価法を採用しております。
    - (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法
      - イ 有形固定資産
        - 定率法を採用しております。
        - 耐用年数は以下のとおりであります。
          - 工具、器具及び備品 3～6年
        - なお、取得価額が10万円以上20万円未満の資産については、3年間で均等償却する方法を採用しております。
      - ロ 無形固定資産
        - 定額法を採用しております。
        - 自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。
        - なお、取得価額が10万円以上20万円未満の資産については、3年間で均等償却する方法を採用しております。
    - (3) 重要な引当金の計上基準
      - 貸倒引当金
        - 債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
    - (4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準
      - 外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外連結子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上しております。
    - (5) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲
      - 手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。
    - (6) その他連結財務諸表作成のための重要な事項
      - 消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当連結会計年度の費用として処理しております。

(表示方法の変更)

(連結貸借対照表)

前連結会計年度において、「投資その他の資産」の「その他」に含めていた「敷金」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「投資その他の資産」の「その他」に表示していた5,118千円は、「敷金及び保証金」5,108千円、「その他」10千円として組替えております。

(連結損益計算書)

前連結会計年度において、「営業外収益」の「その他」に含めていた「受取配当金」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示していた271千円は、「受取配当金」51千円、「その他」220千円として組替えております。

(連結キャッシュ・フロー計算書)

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「未払金の増減額」は金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度においては、「その他」に含めて表示しております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「未払金の増減額」に表示していた68千円は、「その他」として組み替えております。

(連結貸借対照表関係)

有形固定資産の減価償却累計額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2014年3月31日)	当連結会計年度 (2015年3月31日)
有形固定資産の減価償却累計額	40,780千円	44,654千円

(連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2013年4月1日 至 2014年3月31日)	当連結会計年度 (自 2014年4月1日 至 2015年3月31日)
給与	33,559千円	30,974千円
役員報酬	25,875	28,020
支払手数料	21,771	23,156
貸倒引当金繰入額	143	71

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2013年4月1日 至 2014年3月31日)	当連結会計年度 (自 2014年4月1日 至 2015年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	1,726千円	5,069千円
組替調整額	-	-
税効果調整前	1,726	5,069
税効果額	609	1,565
その他有価証券評価差額金	1,116	3,503
為替換算調整勘定：		
当期発生額	939	420
組替調整額	-	-
税効果調整前	939	420
税効果額	-	435
為替換算調整勘定	939	14
その他の包括利益合計	2,055	3,489



(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2013年4月1日 至 2014年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度増加 株式数(株)	当連結会計年度減少 株式数(株)	当連結会計年度末株 式数(株)
発行済株式				
普通株式	3,938	41	-	3,979
合計	3,938	41	-	3,979

(注) 普通株式の発行済株式数の増加41株は、ストック・オプションの行使による増加41株であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2013年6月25日 定時株主総会	普通株式	7,876	2,000	2013年3月31日	2013年6月26日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
2014年6月25日 定時株主総会	普通株式	7,958	利益剰余金	2,000	2014年3月31日	2014年6月26日

当連結会計年度（自 2014年4月1日 至 2015年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数（株）	当連結会計年度増加 株式数（株）	当連結会計年度減少 株式数（株）	当連結会計年度末株 式数（株）
発行済株式				
普通株式	3,979	791,821	-	795,800
合計	3,979	791,821	-	795,800

(注) 1. 当社は、2014年4月1日付で1株につき200株の割合で株式分割を行っております。

2. 普通株式の発行済株式数の増加791,821株は株式分割によるものであります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の 目的となる株 式の種類	新株予約権の目的となる株式の数（株）				当連結会計 年度末残高 （千円）
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社 （親会社）	ストック・オプションとして の新株予約権	-	-	-	-	-	1,635
合計		-	-	-	-	-	1,635

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり配当額 （円）	基準日	効力発生日
2014年6月25日 定時株主総会	普通株式	7,958	2,000	2014年3月31日	2014年6月26日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	配当の原資	1株当たり配 当額（円）	基準日	効力発生日
2015年6月25日 定時株主総会	普通株式	9,549	利益剰余金	12	2015年3月31日	2015年6月26日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 （自 2013年4月1日 至 2014年3月31日）	当連結会計年度 （自 2014年4月1日 至 2015年3月31日）
現金及び預金勘定	329,661千円	322,024千円
現金及び現金同等物	329,661	322,024

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定して行っており、短期的な運転資金については銀行借入等金融機関から調達しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、海外で事業を行うにあたり生じる外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されております。

投資有価証券は主として株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

敷金及び保証金は、主に事務所の賃借に係るものであり、差入の相手先の信用リスクに晒されております。

営業債務である買掛金は、そのほとんどが1ヶ月以内の支払期日であります。また、未払金についても同様にそのほとんどが1ヶ月以内の支払期日であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、営業債権については、営業管理規定に従い、取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引先ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても当社の債権管理規程に準じて同様の管理を行っております。

敷金及び保証金については、相手先の信用状態を十分に検証するとともに、相手先の状況をモニタリングし、財務状況の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は、為替や金利等の変動リスクに対し、金額の重要性が軽微であるため、為替予約ヘッジ、金利スワップ等の取引は行っておりません。

投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財政状態等を把握し、保有状況を継続的に見直しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額ほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品は含まれておりません（（注）2.参照）。

前連結会計年度（2014年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	329,661	329,661	-
(2) 売掛金	49,077		
貸倒引当金(*)	169		
	48,908	48,908	-
(3) 投資有価証券	4,340	4,340	-
(4) 敷金及び保証金	5,108	4,965	142
資産計	388,018	387,875	142
(1) 買掛金	6,850	6,850	-
(2) 未払金	3,559	3,559	-
(3) 未払法人税等	9,543	9,543	-
負債計	19,952	19,952	-

(\*) 売掛金に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

当連結会計年度(2015年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	322,024	322,024	-
(2) 売掛金	60,591		
貸倒引当金(*)	32		
	60,558	60,558	-
(3) 投資有価証券	9,409	9,409	-
(4) 敷金及び保証金	32,892	32,658	234
資産計	424,885	424,651	234
(1) 買掛金	8,507	8,507	-
(2) 未払金	30,238	30,238	-
(3) 未払法人税等	17,096	17,096	-
負債計	55,842	55,842	-

(\*)売掛金に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

投資有価証券の時価は、取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

(4) 敷金及び保証金

敷金及び保証金の時価の算定は、その将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な利率で割り引いた現在価値により算定しております。

負 債

(1) 買掛金、(2) 未払金、(3) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (2014年3月31日)	当連結会計年度 (2015年3月31日)
非上場株式	3,295	3,295

非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

(有価証券関係)  
 その他有価証券  
 前連結会計年度(2014年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	4,340	2,608	1,732
	小計	4,340	2,608	1,732
合計		4,340	2,608	1,732

(注)非上場株式(貸借対照表計上額3,295千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(2015年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	9,409	2,608	6,801
	小計	9,409	2,608	6,801
合計		9,409	2,608	6,801

(注)非上場株式(貸借対照表計上額3,295千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションに係る費用計上額及び科目名

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2013年4月1日 至 2014年3月31日)	当連結会計年度 (自 2014年4月1日 至 2015年3月31日)
売上原価の株式報酬費	-	617
一般管理費の株式報酬費	-	1,018

2. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	2014年ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当社の取締役 2名 当社の監査役 1名 当社の従業員 23名
株式の種類別のストック・オプションの数(注)1	普通株式 16,200株
付与日	2014年5月30日
権利確定条件	(注)2
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。
権利行使期間	2016年7月1日から2021年6月30日

(注)1. 株式数に換算して記載しております。

2. 権利行使時においても、取締役会が正当な理由があると認めた場合を除き、当社又は当社子会社の取締役、監査役もしくは従業員その他これに準ずる地位にあることを条件としております。

(2) スtock・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度(2015年3月期)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	2014年ストック・オプション
権利確定前 (株)	
前連結会計年度末	-
付与	16,200
失効	-
権利確定	-
未確定残	16,200
権利確定後 (株)	
前連結会計年度末	-
権利確定	-
権利行使	-
失効	-
未行使残	-

単価情報

		2014年ストック・オプション
権利行使価格	(円)	661
行使時平均株価	(円)	-
付与日における公正な評価単価	(円)	286

3. スtock・オプションの公正な評価単価の見積方法

当連結会計年度において付与された2014年ストック・オプションについての公正な評価単価の見積方法は以下のとおりであります。

使用した評価技法                      ブラック・ショールズ式

主な基礎数値及び見積方法

		2014年ストック・オプション
株価変動性(注)1		65.3%
予想残存期間(注)2		4.59年
予想配当(注)3		10円/株
無リスク利率(注)4		0.17%

(注)1. 4年7か月間(2011年10月から2014年5月まで)の株価実績に基づき算定しております。

2. 十分なデータの蓄積がなく、合理的な見積りが困難であるため、権利行使期間の中間点において行使されるものと推定して見積もっております。

3. 2014年4月1日付の株式分割(株式1株につき200株)の影響を考慮した2014年3月期の配当実績によっております。

4. 予想残存期間に対応する期間に対応する国債の利回りであります。

4. スtock・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2014年3月31日)	当連結会計年度 (2015年3月31日)
繰延税金資産		
未払事業税否認	906千円	1,426千円
貸倒引当金損金算入限度超過額	133	97
減価償却限度超過額	-	331
投資有価証券評価損	1,765	1,600
未払事業所税否認	330	267
連結子会社の繰越欠損金	3,235	5,894
その他	57	164
繰延税金資産小計	6,429	9,782
評価性引当額	5,000	7,567
繰延税金資産合計	1,428	2,214
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	611	2,177
為替換算調整勘定	-	435
繰延税金負債合計	611	2,612
繰延税金資産(負債)の純額	817	398

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (2014年3月31日)	当連結会計年度 (2015年3月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	1,428千円	2,170千円
固定負債 - 繰延税金負債	611	2,568

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2014年3月31日)	当連結会計年度 (2015年3月31日)
法定実効税率	37.7%	35.3%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	13.0	2.4
住民税均等割	10.6	2.0
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	1.3	0.4
軽減税率の適用	0.8	0.1
所得拡大促進税制による税額控除	-	3.4
雇用促進税制による税額控除	8.7	-
留保金課税	-	0.9
株式報酬費用	-	1.4
評価性引当額の増減	41.8	6.7
海外連結子会社との税率差異	21.2	2.7
その他	0.7	0.2
税効果会計適用後の法人税等の負担率	115.4	48.1



3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正  
「所得税法等の一部を改正する法律」(2015年法律第9号)並びに「地方税法等の一部を改正する法律」(2015年法律第2号)が2015年3月31日に公布され、2015年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率等の引下げ等が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の35.3%から2015年4月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異等については32.8%に、2016年4月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異等については32.0%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額は171千円減少し、法人税等調整額が同額増加しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、ペイロール事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2013年4月1日 至 2014年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

(単位:千円)

日本	中国	合計
13,599	2,560	16,159

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位:千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
三菱総研DCS株式会社	97,408	ペイロール事業

当連結会計年度(自 2014年4月1日 至 2015年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

(単位:千円)

日本	中国	合計
19,787	2,195	21,983

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位:千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
三菱総研DCS株式会社	108,433	ペイロール事業

**【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】**

前連結会計年度（自 2013年4月1日 至 2014年3月31日）  
該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2014年4月1日 至 2015年3月31日）  
該当事項はありません。

**【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】**

前連結会計年度（自 2013年4月1日 至 2014年3月31日）  
該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2014年4月1日 至 2015年3月31日）  
該当事項はありません。

**【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】**

前連結会計年度（自 2013年4月1日 至 2014年3月31日）  
該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2014年4月1日 至 2015年3月31日）  
該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

前連結会計年度（自 2013年4月1日 至 2014年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
親会社の役員が議決権の過半数を所持している会社	キャリアバンク株式会社 （注）1	札幌市中央区	242,181	人材派遣 人材紹介 再就職支援	（被所有） 直接 51.5	給与計算業務の受託・人材派遣の受入・人材の紹介等役員の兼任	給与計算による売上	11,774	売掛金	1,017
							人材派遣の受入	22,095	買掛金	692

当連結会計年度（自 2014年4月1日 至 2015年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
親会社の役員が議決権の過半数を所持している会社	キャリアバンク株式会社 （注）1	札幌市中央区	242,557	人材派遣 人材紹介 再就職支援	（被所有） 直接 51.5	給与計算業務の受託・人材派遣の受入・人材の紹介等役員の兼任	給与計算による売上	13,882	売掛金	1,006
							人材派遣の受入	19,434	買掛金及び未払金	1,488

（注）1. 当社の親会社の役員佐藤良雄が議決権の53.5%を直接又は間接保有しております。

2. 取引金額には消費税は含まれておりません。なお、期末残高には消費税が含まれております。

3. 上記取引におきましては、全て適正価格で取引を行っております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

親会社情報

キャリアバンク株式会社（札幌証券取引所に上場）

( 1株当たり情報 )

	前連結会計年度 (自 2013年4月1日 至 2014年3月31日)	当連結会計年度 (自 2014年4月1日 至 2015年3月31日)
1株当たり純資産額	508.22円	529.10円
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額( )	1.51円	26.50円

- (注) 1. 当社は2014年2月14日開催の当社取締役会に基づき、2014年4月1日付で株式1株につき200株の株式分割を行っております。これにより、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失金額( )を算定しております。
2. 当連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。なお、前連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失金額( )であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額( )の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2013年4月1日 至 2014年3月31日)	当連結会計年度 (自 2014年4月1日 至 2015年3月31日)
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額( )		
当期純利益金額又は当期純損失金額( ) (千円)	1,192	21,086
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益金額又は当期純損失金額( )(千円)	1,192	21,086
期中平均株式数(株)	789,021	795,800
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要	-	第3回新株予約権(2014年ストック・オプション)1種類(新株予約権の数162個)。 なお、新株予約権の概要は「第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (2) 新株予約権等の状況」に記載のとおりであります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

該当事項はありません。

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2)【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	145,047	259,818	586,851	778,117
税金等調整前四半期(当期)純利益金額又は税金等調整前四半期純損失金額( ) (千円)	4,316	18,856	20,737	40,661
四半期(当期)純利益金額又は四半期純損失金額( ) (千円)	4,980	16,071	10,154	21,086
1株当たり四半期(当期)純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額( )(円)	6.26	20.20	12.76	26.50

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額( )(円)	6.26	13.94	32.96	13.74

## 2【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2014年3月31日)	当事業年度 (2015年3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	327,921	310,664
売掛金	49,077	60,478
前払費用	1,869	5,213
繰延税金資産	1,428	2,174
その他	2,332	3,233
貸倒引当金	574	420
<b>流動資産合計</b>	<b>382,056</b>	<b>381,346</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物附属設備（純額）	2,426	905
工具、器具及び備品（純額）	11,107	8,846
車両運搬具（純額）	66	48
建設仮勘定	-	9,986
<b>有形固定資産合計</b>	<b>13,599</b>	<b>19,787</b>
<b>無形固定資産</b>		
ソフトウェア	32,935	31,880
ソフトウェア仮勘定	-	30,939
<b>無形固定資産合計</b>	<b>32,935</b>	<b>62,819</b>
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	7,635	12,704
関係会社株式	15,498	34,068
出資金	10	10
敷金及び保証金	4,577	32,268
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>27,722</b>	<b>79,051</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>74,256</b>	<b>161,658</b>
<b>資産合計</b>	<b>456,312</b>	<b>543,005</b>
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	7,135	8,507
未払金	3,559	30,238
未払費用	5,776	9,561
未払法人税等	9,543	17,096
前受金	1,907	1,563
預り金	1,138	3,871
その他	10,198	24,695
<b>流動負債合計</b>	<b>39,258</b>	<b>95,535</b>
<b>固定負債</b>		
繰延税金負債	611	2,133
<b>固定負債合計</b>	<b>611</b>	<b>2,133</b>
<b>負債合計</b>	<b>39,870</b>	<b>97,668</b>

(単位：千円)

	前事業年度 (2014年3月31日)	当事業年度 (2015年3月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	244,822	244,822
資本剰余金		
資本準備金	79,798	79,798
資本剰余金合計	79,798	79,798
利益剰余金		
利益準備金	272	272
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	90,429	114,183
利益剰余金合計	90,701	114,456
株主資本合計	415,321	439,076
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,120	4,624
評価・換算差額等合計	1,120	4,624
新株予約権	-	1,635
純資産合計	416,442	445,336
負債純資産合計	456,312	543,005

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2013年4月1日 至 2014年3月31日)	当事業年度 (自 2014年4月1日 至 2015年3月31日)
売上高	634,565	777,760
売上原価	467,437	577,040
売上総利益	167,128	200,719
販売費及び一般管理費	145,187	149,181
営業利益	21,940	51,537
営業外収益		
受取利息	154	148
為替差益	29	2,540
その他	751	1,057
営業外収益合計	934	3,745
経常利益	22,875	55,283
特別損失		
受託業務補償負担金	2,194	4,000
その他	-	0
特別損失合計	2,194	4,000
税引前当期純利益	20,680	51,283
法人税、住民税及び事業税	9,620	20,360
法人税等調整額	688	790
法人税等合計	8,932	19,570
当期純利益	11,748	31,712



【売上原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2013年4月1日 至 2014年3月31日)		当事業年度 (自 2014年4月1日 至 2015年3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
労務費		292,412	62.6	349,361	60.5
経費		161,739	34.6	183,917	31.9
外注費		13,285	2.8	43,761	7.6
当期売上原価		467,437	100.0	577,040	100.0

原価計算の方法

原価計算の方法は、ペイロール事業のうちシステムの受託開発・販売業務について、実際原価による個別原価計算を採用しております。

(注) 主な内訳は次のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 2013年4月1日 至 2014年3月31日)	当事業年度 (自 2014年4月1日 至 2015年3月31日)
勤怠・人事システム保守原価(千円)	20,993	30,440
旅費交通費(千円)	25,553	29,801
消耗品費(千円)	18,477	19,638
地代家賃(千円)	16,318	18,141
荷造運賃費(千円)	14,051	16,982
減価償却費(千円)	16,409	15,917
賃借料(千円)	13,240	14,081
水道光熱費(千円)	3,498	5,298

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2013年4月1日 至 2014年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本						株主資本合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		利益剰余金合計	
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金		
当期首残高	243,120	78,096	78,096	272	86,556	86,828	408,045
当期変動額							
新株の発行	1,701	1,701	1,701				3,403
剰余金の配当					7,876	7,876	7,876
当期純利益					11,748	11,748	11,748
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)							
当期変動額合計	1,701	1,701	1,701	-	3,872	3,872	7,275
当期末残高	244,822	79,798	79,798	272	90,429	90,701	415,321

	評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計		
当期首残高	3	3	-	408,049
当期変動額				
新株の発行				3,403
剰余金の配当				7,876
当期純利益				11,748
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	1,116	1,116		1,116
当期変動額合計	1,116	1,116	-	8,392
当期末残高	1,120	1,120	-	416,442

当事業年度（自 2014年4月1日 至 2015年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本						株主資本合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		利益剰余金合計	
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金		
当期首残高	244,822	79,798	79,798	272	90,429	90,701	415,321
当期変動額							
新株の発行							-
剰余金の配当					7,958	7,958	7,958
当期純利益					31,712	31,712	31,712
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）							
当期変動額合計	-	-	-	-	23,754	23,754	23,754
当期末残高	244,822	79,798	79,798	272	114,183	114,456	439,076

	評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計		
当期首残高	1,120	1,120	-	416,442
当期変動額				
新株の発行				-
剰余金の配当				7,958
当期純利益				31,712
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	3,503	3,503	1,635	5,139
当期変動額合計	3,503	3,503	1,635	28,894
当期末残高	4,624	4,624	1,635	445,336

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法を採用しております。

耐用年数は以下のとおりであります。

建物附属設備 3～9年

工具、器具及び備品 3～6年

車両運搬具 4～6年

なお、取得価額が10万円以上20万円未満の資産については、3年間で均等償却する方法を採用しております。

(2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

なお、取得価額が10万円以上20万円未満の資産については、3年間で均等償却する方法を採用しております。

3. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理していません。

4. 引当金の計上基準

貸倒引当金

債権等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当事業年度の費用として処理しております。

(表示方法の変更)

(貸借対照表)

前事業年度において、「投資その他の資産」の「その他」に含めていた「敷金及び保証金」は、金額的重要性が増したため、当事業年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「投資その他の資産」の「その他」に表示していた4,577千円は、「敷金及び保証金」4,577千円として組替えております。当該変更は財務諸表等規則第24条に基づくものであります。

(損益計算書)

前事業年度において、独立掲記していた「営業外収益」の「未払配当金除斥益」、「業務受託手数料」及び「受取補償金」は、金額的重要性が乏しくなったため、当事業年度より「その他」に含めて表示しております。また、「営業外収益」の「その他」に含めていた「為替差益」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外収益」の「未払配当金除斥益」に表示していた106千円、「業務受託手数料」に表示していた209千円及び「受取補償金」に表示していた269千円は、「その他」として組替えており、「営業外収益」の「その他」に含め表示していた29千円は、「為替差益」29千円として組替えております。

(損益計算書関係)

販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度4%、事業年度3%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度96%、当事業年度97%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2013年4月1日 至 2014年3月31日)	当事業年度 (自 2014年4月1日 至 2015年3月31日)
給与	28,493千円	24,198千円
役員報酬	25,875	28,020
支払手数料	20,828	22,487
減価償却費	4,528	4,081
貸倒引当金繰入額	138	54

(有価証券関係)

子会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は34,068千円、前事業年度の貸借対照表計上額は15,498千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2014年3月31日)	当事業年度 (2015年3月31日)
繰延税金資産		
未払事業税否認	906千円	1,426千円
貸倒引当金損金算入限度超過額	133	102
減価償却超過額	-	331
投資有価証券評価損	1,765	1,600
未払事業所税否認	330	267
その他	57	164
繰延税金資産小計	3,193	3,892
評価性引当額	1,765	1,673
繰延税金資産合計	1,428	2,218
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	611	2,177
繰延税金負債合計	611	2,177
繰延税金資産の純額	817	41

(注) 前事業年度及び当事業年度における繰延税金資産の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれておりません。

	前連結会計年度 (2014年3月31日)	当連結会計年度 (2015年3月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	1,428千円	2,174千円
固定負債 - 繰延税金負債	611	2,133

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2014年3月31日)	当事業年度 (2015年3月31日)
法定実効税率	37.7%	35.3%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	4.9	1.9
住民税均等割	3.9	1.6
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	0.5	0.3
軽減税率の影響	0.3	0.1
雇用促進税制による税額控除	3.2	-
所得拡大税制による税額控除	-	2.7
留保金課税	-	0.7
株式報酬費用	-	1.1
評価性引当額の増減	-	0.1
その他	0.3	0.0
税効果会計適用後の法人税等の負担率	43.2	38.2

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(2015年法律第9号)並びに「地方税法等の一部を改正する法律」(2015年法律第2号)が2015年3月31日に公布され、2015年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率等の引下げ等が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は、従来の35.3%から2015年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については32.8%に、2016年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については32.0%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は171千円減少し、法人税等調整額が同額増加しております。

(重要な後発事象)  
該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残高 (千円)
有形固定資産							
建物附属設備	5,742	-	-	5,742	4,836	1,520	905
工具、器具及び備品	45,912	4,365	5,499	44,778	35,931	6,625	8,846
車両運搬具	1,767	-	-	1,767	1,719	17	48
建設仮勘定	-	9,986	-	9,986	-	-	9,986
有形固定資産計	53,422	14,352	5,499	62,275	42,487	8,163	19,787
無形固定資産							
ソフトウェア	81,873	10,620	-	92,493	60,612	11,674	31,880
ソフトウェア仮勘定	-	30,939	-	30,939	-	-	30,939
無形固定資産計	81,873	41,559	-	123,432	60,612	11,674	62,819

(注) 当期増減額のうち主なものは次のとおりであります。

工具、器具及び備品	増加額(千円)	事務用機器 (パソコン、スキャナ)	本社	3,607
	減少額(千円)	事務用機器 (サーバ、パソコン)	本社	3,624
建設仮勘定	増加額(千円)	給与計算システム	本社	9,986
ソフトウェア	増加額(千円)	年末調整システム	本社	9,870
ソフトウェア仮勘定	増加額(千円)	給与計算システム	本社	30,939

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	574	420	99	474	420

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、一般債権の貸倒実績率による洗替額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	東京都千代田区霞ヶ関三丁目2番5号 株式会社アイ・アール ジャパン 東京都千代田区霞ヶ関三丁目2番5号 株式会社アイ・アール ジャパン _____ 株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL <a href="http://www.ecomic.jp">http://www.ecomic.jp</a>
株主に対する特典	該当事項はありません。



## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第17期）（自 2013年4月1日 至 2014年3月31日）2014年6月26日北海道財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

2014年6月26日北海道財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

（第18期第1四半期）（自 2014年4月1日 至 2014年6月30日）2014年8月13日北海道財務局長に提出

（第18期第2四半期）（自 2014年7月1日 至 2014年9月30日）2014年11月13日北海道財務局長に提出

（第18期第3四半期）（自 2014年10月1日 至 2014年12月31日）2015年2月13日北海道財務局長に提出

(4) 臨時報告書

2014年6月27日北海道財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2015年6月17日

株式会社 エコミック

取締役会 御中

### 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	香川	順	印
--------------------	-------	----	---	---

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	五十嵐	康彦	印
--------------------	-------	-----	----	---

#### <財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社エコミックの2014年4月1日から2015年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

#### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社エコミック及び連結子会社の2015年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社エコミックの2015年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、株式会社エコミックが2015年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

2015年6月17日

株式会社 エコミック

取締役会 御中

### 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	香川	順	印
--------------------	-------	----	---	---

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	五十嵐	康彦	印
--------------------	-------	-----	----	---

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社エコミックの2014年4月1日から2015年3月31日までの第18期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

#### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社エコミックの2015年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。